

# 四半期報告書

(第20期第3四半期)

自 平成21年9月1日  
至 平成21年11月30日

株式会社クリーク・アンド・リバー社

東京都千代田区麴町二丁目10番9号

## 表紙

## 第一部 企業情報

## 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	3
3 関係会社の状況	3
4 従業員の状況	3

## 第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	4
2 事業等のリスク	4
3 経営上の重要な契約等	4
4 財政状態及び経営成績の分析	4

第3 設備の状況	8
----------	---

## 第4 提出会社の状況

## 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	9
(2) 新株予約権等の状況	10
(3) ライツプランの内容	11
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	11
(5) 大株主の状況	11
(6) 議決権の状況	11

2 株価の推移	12
---------	----

3 役員の状況	12
---------	----

第5 経理の状況	13
----------	----

## 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	14
(2) 四半期連結損益計算書	16
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	18

2 その他	27
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報	28
-------------------	----

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年1月14日
【四半期会計期間】	第20期第3四半期（自平成21年9月1日至平成21年11月30日）
【会社名】	株式会社クリーク・アンド・リバー社
【英訳名】	CREEK & RIVER Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 井川 幸広
【本店の所在の場所】	東京都千代田区麹町二丁目10番9号
【電話番号】	03（4550）0011（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 福田 浩幸
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区麹町二丁目10番9号
【電話番号】	03（4550）0011（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 福田 浩幸
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所  (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期第3四半期 連結累計期間	第20期第3四半期 連結会計期間	第19期
会計期間	自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日	自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日	自 平成20年3月1日 至 平成21年2月28日
売上高 (千円)	9,704,698	3,258,404	14,992,991
経常利益 (千円)	231,888	4,325	502,553
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失(△) (千円)	55,214	△16,326	260,733
純資産額 (千円)	—	3,407,999	3,344,603
総資産額 (千円)	—	5,479,909	5,153,708
1株当たり純資産額 (円)	—	14,276.40	14,258.67
1株当たり四半期(当期)純利 益金額又は1株当たり四半期純 損失金額(△) (円)	256.47	△75.83	1,201.00
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	—	56.1	59.6
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	345,300	—	889,148
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	△903,379	—	△173,757
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	274,593	—	△579,462
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	—	1,688,014	1,966,773
従業員数 (名)	—	383	338

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第19期及び第20期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第20期第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

なお、当社グループは従来、「エージェンシー事業」「教育事業」「出版事業」の区分によっておりましたが、各分野においてエージェンシー事業を展開する連結子会社の規模の成長や、今後の事業展開等を鑑み、セグメント情報を経営環境とより適合したものとするため、第1四半期連結会計期間より「クリエイティブ分野（日本）」「クリエイティブ分野（韓国）」「医療分野」「IT・法曹他」に変更しております。

また、第2四半期連結会計期間において、ジャスネットコミュニケーションズ株式会社を連結の範囲に含めたことにより、事業区分の「IT・法曹他」を「IT・法曹・会計他」に名称変更しております。

## 3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

なお、連結子会社である株式会社ティー・オー・ピーは、平成21年9月28日の臨時株主総会において解散決議し、現在清算手続き中であります。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成21年11月30日現在

従業員数（名）	383（58）
---------	---------

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 「従業員数」欄の（外書）は、臨時従業員の当第3四半期連結会計期間の平均雇用人員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成21年11月30日現在

従業員数（名）	154（29）
---------	---------

(注) 1 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者除く。）であります。

2 「従業員数」欄の（外書）は、臨時従業員の当第3四半期会計期間の平均雇用人員であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日)
クリエイティブ分野（日本）（百万円）	2,162
クリエイティブ分野（韓国）（百万円）	395
医療分野（百万円）	456
I T・法曹・会計他（百万円）	244
合計（百万円）	3,258

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 主要顧客（総販売実績に対する割合が10%以上）に該当するものはありません。

### 2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 4【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、当連結会計年度は四半期報告制度の導入初年度であるため、前年同期比較分析には、前年同期の参考値を用いております。

#### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間における経済環境は、世界的金融危機の影響により景気低迷が続く中、一部の経済指標では改善の兆しが見え始めているものの、円高・デフレ傾向や雇用情勢の悪化、設備投資の抑制傾向等不安材料も多く、依然先行き不透明な状況が続いています。

当社グループは、クリエイティブ、医療、I T、法曹、会計等、専門分野毎にエージェンシー事業を展開し、ビジネス・ポートフォリオを構成しております。当第3四半期連結会計期間においては、医療分野は景気動向に関わらず、業績は順調に推移いたしました。一方、クリエイティブ分野、I T分野においては、景気悪化の影響が顕在化いたしました。

当社グループの中核となる株式会社クリーク・アンド・リバー社が事業を展開する国内のクリエイティブ業界では、企業の採用意欲の減退に伴い、求人広告に関するアウトソーシングの受託が大幅に減少したこと等により、業績が前年を下回る結果となりました。一方、急速に拡大するECマーケットに対する取り組みを強化すべく専門組織を組成し、中国検索サイト最大手であるBaidu, Inc.の日本法人バイドゥ株式会社との事業提携や、中国市場に進出を目指す日本企業向けに新たなサービスを開始する等、成長マーケットに対して積極的に投資を行ない、今後繋がる体制整備が着実に進展いたしました。

当社のビジネスモデルを韓国で展開する連結子会社CREEK & RIVER KOREA Co., Ltd. は、世界同時不況により厳しい状況が続く韓国経済下において、韓国ウォンベースにおいては概ね前年並みの売上高を確保いたしました。ただし、日本円に対する韓国ウォンレートが前年同期比約29%下落したことに伴い、結果として当社グループの連結決算の売上高に約1.1億円の影響を与える状況となりました。

一方、連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社が属する医療業界においては、全国各地での医師の偏在と不足の恒常化により、各医療機関からの人材ニーズは引き続き高水準で推移しております。また、登録医師の増加を図るため、既存登録者からの紹介登録促進等の諸施策を実施し、医師の登録者数が32,000名となりました。登録者数の増加に伴い、成約件数は前期比約1.3倍となる等、同社の業績は順調に推移しております。また、セミナーの実施や医師求人サイト「MediGate」のコンテンツ充実等により、医療機関と医師双方へのサービス強化を図っております。

これらの結果、当社グループの当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高3,258百万円（前年同四半期比80.3%）、営業損失3百万円（前年同四半期は営業利益170百万円）、経常利益4百万円（前年同四半期比2.5%）、四半期純損失16百万円（前年同四半期は四半期純利益96百万円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① クリエイティブ分野（日本）

クリエイティブ分野（日本）は、グループの中核となる株式会社クリーク・アンド・リバー社が、映像、ゲーム、Web・モバイル、広告・出版等あらゆるクリエイティブ領域で活躍するクリエイターを対象としたエンジェンシー事業を展開しております。

映像制作及び映像技術関連では、コアクライアントであるTV局において外注費の抑制傾向が強まる一方で、内制率が高まっていることに伴い、優秀な人材の確保・育成により、増加する人材ニーズに的確に対応しております。

ゲーム関連では、TV局同様、大手ゲームパブリッシャーにおいて外注費の抑制傾向が強まる一方で、内制率の高まりに伴う人材ニーズへの対応力を強化しております。また、ゲーム関連で培ったノウハウを活かし、アミューズメント企業の企画・CG制作ニーズへの対応を強化しております。更に新たな取り組みとして、平成21年4月よりレベニューシェアモデルを取り入れ、テレビ番組と連動したゲームコンテンツが楽しめるモバイルゲームサイトの運営を、株式会社フジテレビジョンと共同で行なっております。平成21年11月末日現在でモバイルゲームサイトの会員数は約9,000名と、サービス開始当初の約2倍に増加しました。

一般事業法人関連では、企業の採用意欲の減退に伴う、求人広告に関するアウトソーシングの受託が大幅に減少したこと等が、業績に多大な影響を及ぼしました。一方、アウトソーシングを除く一般事業法人向けコンテンツ制作請負に関しては、より費用対効果を求めるクライアントニーズに対応すべく、PRとセールスプロモーションを融合した企画提案を積極的に推進することで、前年対比伸張しております。更に、Webやモバイルを通じたECマーケットが飛躍的に拡大していることを踏まえ、専門部署を組成し、成長マーケットに対する取り組みを加速させております。中国検索サイト最大手であるBaidu, Inc.の日本法人バイドゥ株式会社との事業提携や、Webマガジンを活用したマーケティングサービス等日本企業の中国進出サポートを開始し、当社のノウハウを活かしたサービス開発を強化しております。

また、クリエイターのスキルアップ・キャリアアップのサポートを目的とし、様々なジャンルのトレーニング・カリキュラムや各種セミナーを実施しております。当第3四半期連結会計期間においては、国家資格であるウェブデザイン技能検定の試験範囲をカバーする実践的な講座を実施する等、10講座を実施し、延べ約100名の参加がありました。更に、厚生労働省所管の独立行政法人雇用・能力開発機構 東京センターより能力開発業務を2コース（①制作進行科・②モバイルコンテンツ企画科）受託する等、当社の実績・ノウハウを活かした展開を行なっております。

これらの結果、クリエイティブ分野（日本）は売上高2,162百万円となりました。

## ② クリエイティブ分野（韓国）

クリエイティブ分野（韓国）は、連結子会社CREEK & RIVER KOREA Co.,Ltd.が、クリエイティブ分野（日本）と同様のビジネスモデルを韓国にて展開しております。

同分野では、約70のチャンネルへ約900名のスタッフ派遣を通じたTV局との取引に加え、WebやCG分野等、より多様なニーズへの対応を強化しております。更に、59名のトップクリエイターの専属マネジメントを行ない、トップクリエイターの作品の映像・書籍化、プロデュース企画等を通じて、ライツ・マネジメントにも積極的に取り組んでおります。

なお、韓国ウォンベースにおける業績は、韓国経済悪化の影響を受けながらも概ね前年並みの水準を確保したものの、日本円に対する韓国ウォンレートが前年同期比約29%下落したことに伴い、売上高に対して約1.1億円のマイナス影響が生じました。

これらの結果、クリエイティブ分野（韓国）は売上高395百万円となりました。

## ③ 医療分野

医療分野は、連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社が、「民間医局」をコンセプトにドクター・エージェンシー事業を展開しております。

同分野は比較的景況の影響を受けにくく、全国的かつ慢性的な医師不足・偏在の状況が続く中、医師へのニーズは引き続き高水準で推移しております。大学医局・医師・医療機関を繋ぐ的確なサービスに対する認知度向上に伴い、平成21年9月末日現在、登録医師数が約32,000名、登録医療機関は約7,800となり、成約件数も順調に伸張しております。

また、医師、医療機関双方に向けたサービスの多様化と充実に努め、新たなサービス開発を行っております。医師の求人情報を掲載するWebサイト「MediGate」では、求職医師が求める詳細かつ具体的な情報の提供により利便性を高めると共に、情報掲載された医療機関との連携強化により、医師紹介に向けた積極的なアプローチを行っており、平成21年9月末の掲載医療機関数は186件となりました。加えて、平成21年2月よりスタートした医師会員のための福利厚生サービス「Doctor's Life」は、利用者数が1,700名を超え、医師がより医療に専念できる環境をサポートしております。

これらの結果、医療分野は売上高456百万円となりました。

## ④ IT・法曹・会計他

ITエンジニアのエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社リーディング・エッジ社では、動画配信システムの受注においてサーバの設計・システム開発から運用面におけるサポートを提供する等、人材サービスに加え、WebシステムやDB構築、基幹システム構築等のノウハウを蓄積しております。また、市場のニーズが高いEC関連のシステム構築に注力しており、今後同分野を推進する当社とのシナジー向上を目指しております。更に、今後成長が見込まれるGoogleが開発した携帯電話向け基本ソフト（OS）「Android（アンドロイド）」に関するセミナーを実施する等、エンジニアのスキル強化に努めております。

法曹関係者のエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社C&Rリーガル・エージェンシー社は、弁護士等の登録者数が約2,000名となる等、法曹・法律事務所・企業法務部とのネットワーク拡大が進展、第3四半期連結会計期間単独では黒字化を達成しました。

また、一般社団法人GBL研究所と共同で国際法務に関するセミナーも12回開催し、延べ90名が参加いたしました。

第2四半期連結会計期間より新たに連結対象に加わった、会計分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社ジャスネットコミュニケーションズ株式会社は、昨年来の世界的金融危機に伴い、人材ニーズは減少傾向にありましたが、公認会計士・税理士等の有資格者に対するニーズは比較的堅調に推移しております。今後有資格者の一層の登録強化により、会計士・税理士及び会計事務所や企業とのネットワーク拡大を進め、収益力向上に努めてまいります。

これらの結果、IT・法曹・会計他は売上高244百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末より67百万円減少し3,921百万円となりました。これは、主として現金及び預金が273百万円の減少、受取手形及び売掛金が170百万円減少し、短期貸付金が291百万円増加したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末より393百万円増加し1,558百万円となりました。これは、主として投資有価証券の増加78百万円、子会社株式の取得に伴うのれんの増加293百万円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末より263百万円増加し1,736百万円となりました。これは、主として短期借入金の増加300百万円等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末より1百万円減少し335百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末より63百万円増加し3,407百万円となりました。これは、主として利益剰余金の増加12百万円、少数株主持分の増加58百万円等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ278百万円減少し1,688百万円となりました。当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、94百万円の支出となりました。主な要因は、減価償却費53百万円、売上債権の増加額135百万円、仕入債務の増加額62百万円及びその他負債の減少額102百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、111百万円の支出となりました。主な要因は、投資有価証券の取得による支出100百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、27百万円の支出となりました。主な要因は、短期借入金の返済による支出100百万円、長期借入れによる収入100百万円及び長期借入金の返済による支出27百万円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

前四半期連結会計期間末に計画していた重要な設備の新設、除却等はありません。また、当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	447,200
計	447,200

##### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数（株） （平成21年11月30日）	提出日現在発行数（株） （平成22年1月14日）	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	226,090	226,090	大阪証券取引所 （ニッポン・ニュー・マーケ ット「ヘラクレス」市場）	—
計	226,090	226,090	—	—

(注) 1 「提出日現在発行数」には、平成22年1月1日から当四半期報告書の提出日までの新株予約権等の行使により発行された株式数は含まれておりません。

2 当社は、単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

## (2) 【新株予約権等の状況】

旧商法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

株主総会の特別決議日（平成17年5月25日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成21年11月30日）
新株予約権の数（個）	102
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	510（注）2
新株予約権の行使時の払込金額（円）	63,709（注）1
新株予約権の行使期間	自平成22年6月1日 至平成24年5月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 63,709（注）2 資本組入額 31,855（注）2
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時において当社又は当社子会社の取締役、監査役、従業員又は顧問の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りでない。</p> <p>また、新株予約権の割当を受けた取引先は、権利行使時においても、当社及び当社子会社との取引関係が良好に継続していることを要する。ただし、次の各号に該当した場合は権利を喪失する。</p> <p>① 競合関係にある他の会社の親会社、子会社又は関連会社となった場合</p> <p>② 前号との取引関係が緊密であると客観的に判断される場合</p> <p>③ 前二号の役員、従業員又は顧問となった場合</p> <p>次の各号に該当した場合、権利行使期間満了前といえども、直ちに新株予約権を行使する資格を喪失し、当該新株予約権は消滅する。</p> <p>① 禁固以上の刑に処せられた場合</p> <p>② 死亡した場合</p> <p>③ 当社所定の書面により新株予約権の全部又は一部を放棄する旨を申し出た場合</p> <p>新株予約権の譲渡、質入その他の担保設定及び相続は認めない。</p> <p>新株予約権の行使は、割当てられた新株予約権個数の整数倍の単位で行使するものとする。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

（注）1 新株予約権発行後、当社が株式分割、株式併合を行なう場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株式を発行又は自己株式の処分を行なう場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行（処分）株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行（処分）株式数}}$$

2 平成17年4月21日開催の取締役会決議により、平成17年10月20日付をもって1株を5株に株式分割いたしました。これに伴い、新株予約権の目的となる株式の数、新株予約権の行使時の払込金額及び新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価額及び資本組入額が修正されました。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年9月1日～ 平成21年11月30日	—	226,090	—	1,035,594	—	271,006

(5) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成21年8月31日）に基づく株主名簿で記載しております。

① 【発行済株式】

平成21年11月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 10,809	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式 (その他)	普通株式 215,281	215,281	同上
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	226,090	—	—
総株主の議決権	—	215,281	—

(注) 「完全議決権株式 (自己株式等)」の欄は、全て当社保有の自己株式であります。

② 【自己株式等】

平成21年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社クリーク・ア ンド・リバー社	東京都千代田区麹町 二丁目10番9号	10,809	—	10,809	4.78
計	—	10,809	—	10,809	4.78

## 2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
最高（円）	14,000	15,780	13,160	17,700	21,700	19,400	17,450	13,980	13,550
最低（円）	12,400	11,890	11,710	12,450	15,250	15,910	12,900	12,210	11,100

（注）最高・最低株価は大阪証券取引所（ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」市場）におけるものであります。

## 3 【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（自平成21年9月1日至平成21年11月30日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年3月1日至平成21年11月30日）に係る四半期連結財務諸表について、太陽ASG有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年11月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,811,422	2,084,648
受取手形及び売掛金	1,407,523	※3 1,578,190
製品	32,173	34,141
仕掛品	15,772	6,568
貯蔵品	2,000	1,953
その他	671,422	302,861
貸倒引当金	△18,422	△19,412
流動資産合計	3,921,891	3,988,952
固定資産		
有形固定資産	※1 193,080	※1 227,574
無形固定資産		
のれん	337,062	43,338
ソフトウェア	317,544	316,115
その他	14,061	14,093
無形固定資産合計	668,669	373,547
投資その他の資産		
敷金及び保証金	423,414	405,038
その他	289,725	191,281
貸倒引当金	△16,872	△32,686
投資その他の資産合計	696,267	563,633
固定資産合計	1,558,017	1,164,755
資産合計	5,479,909	5,153,708
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	610,353	679,571
短期借入金	300,000	—
1年内返済予定の長期借入金	123,600	105,000
未払法人税等	157,192	103,488
賞与引当金	77,408	87,679
保証履行引当金	9,913	11,318
その他	458,266	485,908
流動負債合計	1,736,733	1,472,966
固定負債		
長期借入金	111,400	112,500
退職給付引当金	73,776	69,491
その他	150,000	154,146
固定負債合計	335,176	336,138
負債合計	2,071,910	1,809,104

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年11月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,035,594	1,035,594
資本剰余金	1,874,684	1,874,684
利益剰余金	461,786	449,628
自己株式	△246,809	△246,809
株主資本合計	3,125,255	3,113,097
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△12,474	△600
為替換算調整勘定	△39,342	△42,874
評価・換算差額等合計	△51,816	△43,474
新株予約権	9,651	8,379
少数株主持分	324,908	266,601
純資産合計	3,407,999	3,344,603
負債純資産合計	5,479,909	5,153,708

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日)
売上高	9,704,698
売上原価	6,530,603
売上総利益	3,174,094
販売費及び一般管理費	* 2,954,323
営業利益	219,771
営業外収益	
受取利息	6,489
受取配当金	111
保険解約返戻金	4,830
その他	6,256
営業外収益合計	17,687
営業外費用	
支払利息	3,547
支払補償費	1,047
その他	975
営業外費用合計	5,570
経常利益	231,888
特別利益	
貸倒引当金戻入額	11,757
受取和解金	10,000
保証履行引当金戻入額	1,148
特別利益合計	22,906
特別損失	
投資有価証券評価損	2,448
固定資産除却損	584
事務所移転費用	11,271
特別損失合計	14,304
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益	240,489
匿名組合損益分配額	△1,150
税金等調整前四半期純利益	241,640
法人税、住民税及び事業税	177,764
法人税等調整額	△43,179
法人税等合計	134,584
少数株主利益	51,841
四半期純利益	55,214

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日)
売上高	3,258,404
売上原価	2,222,156
売上総利益	1,036,247
販売費及び一般管理費	※ 1,039,400
営業損失(△)	△3,152
営業外収益	
受取利息	1,941
受取配当金	29
保険解約返戻金	2,325
その他	4,412
営業外収益合計	8,708
営業外費用	
支払利息	1,186
その他	43
営業外費用合計	1,230
経常利益	4,325
特別利益	
受取和解金	10,000
保証履行引当金戻入額	7,232
特別利益合計	17,232
特別損失	
固定資産除却損	113
投資有価証券評価損	499
特別損失合計	613
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益	20,945
匿名組合損益分配額	1,971
税金等調整前四半期純利益	18,973
法人税、住民税及び事業税	45,165
法人税等調整額	△20,925
法人税等合計	24,239
少数株主利益	11,059
四半期純損失(△)	△16,326

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間  
 (自平成21年3月1日  
 至平成21年11月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	241,640
減価償却費	161,462
株式報酬費用	1,271
のれん償却額	47,051
移転費用	11,271
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△17,859
賞与引当金の増減額(△は減少)	△18,711
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,015
保証履行引当金の増減額(△は減少)	△2,574
受取利息及び受取配当金	△6,600
支払利息	3,547
為替差損益(△は益)	△624
固定資産除却損	584
投資有価証券評価損益(△は益)	2,448
売上債権の増減額(△は増加)	232,525
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,229
仕入債務の増減額(△は減少)	△98,177
その他の資産の増減額(△は増加)	13,629
その他の負債の増減額(△は減少)	△66,557
小計	500,115
利息及び配当金の受取額	4,381
利息の支払額	△3,585
法人税等の支払額	△155,610
営業活動によるキャッシュ・フロー	345,300
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△5,532
投資有価証券の取得による支出	△100,989
投資有価証券の売却による収入	1
関係会社株式の取得による支出	△3,735
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△366,384
有形固定資産の取得による支出	△15,901
無形固定資産の取得による支出	△124,648
貸付けによる支出	△302,896
貸付金の回収による収入	21,071
その他の支出	△24,959
その他の収入	20,593
投資活動によるキャッシュ・フロー	△903,379

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間  
(自平成21年3月1日  
至平成21年11月30日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	300,000
長期借入れによる収入	100,000
長期借入金の返済による支出	△82,500
配当金の支払額	△42,906
財務活動によるキャッシュ・フロー	274,593
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,727
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△278,758
現金及び現金同等物の期首残高	1,966,773
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,688,014

【継続企業の前提に関する事項】

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日）

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日)
1 連結の範囲に関する事項の変更	<p>(1) 連結の範囲の変更 平成21年6月4日にジャスネットコミュニケーションズ株式会社の株式を取得したことに伴い、第2四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数 9社</p>
2 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更	<p>第2四半期連結会計期間から連結子会社となったジャスネットコミュニケーションズ株式会社は、決算日を3月31日から2月末日に変更したことにより、当社の連結決算日と一致しております。</p> <p>当第3四半期連結財務諸表の作成にあたっては、平成21年5月31日現在で仮決算を行い、平成21年6月1日から平成21年11月30日までの6か月間を連結しております。</p>
3 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) リース取引に関する会計基準の適用 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成5年6月17日 最終改正 平成19年3月30日 企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成6年1月18日 最終改正 平成19年3月30日 企業会計基準適用指針第16号）が、平成20年4月1日以後に開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができるようになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。 なお、リース取引開始日が会計基準適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。 この変更による<b>当第3</b>四半期連結財務諸表に与える影響はありません。</p> <p>(2) 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成18年7月5日公表分 企業会計基準第9号）を適用し、評価基準については、原価法から原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）に変更しております。 この変更による<b>当第3</b>四半期連結財務諸表に与える影響はありません。</p> <p>(3) 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用 第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（企業会計基準委員会 実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用しております。 この変更による<b>当第3</b>四半期連結財務諸表に与える影響はありません。</p>

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日)

- 1 一般債権の貸倒見積高の算定方法  
当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。
- 2 固定資産の減価償却費の算定方法  
減価償却の方法として定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日)  
該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年11月30日)	前連結会計年度末 (平成21年2月28日)												
<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額 491,713千円</p> <p>2 保証債務 下記のとおり、債務保証しております。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>相手先名</th> <th>金額</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大日本印刷(株)</td> <td style="text-align: right;">1,624千円</td> <td>子会社取引先(株)カレット (旧社名：(有)エス・パブリッシング)の買掛金債務、手形債務</td> </tr> </tbody> </table>	相手先名	金額	種類	大日本印刷(株)	1,624千円	子会社取引先(株)カレット (旧社名：(有)エス・パブリッシング)の買掛金債務、手形債務	<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額 452,999千円</p> <p>2 保証債務 下記のとおり、債務保証しております。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>相手先名</th> <th>金額</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大日本印刷(株)</td> <td style="text-align: right;">1,478千円</td> <td>子会社取引先(有)エス・パブリッシングの買掛金債務、手形債務</td> </tr> </tbody> </table> <p>※3 連結会計年度末日満期手形 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。 なお、当連結会計年度の末日は金融機関の休日であったため、下記の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。 受取手形 4,000千円</p>	相手先名	金額	種類	大日本印刷(株)	1,478千円	子会社取引先(有)エス・パブリッシングの買掛金債務、手形債務
相手先名	金額	種類											
大日本印刷(株)	1,624千円	子会社取引先(株)カレット (旧社名：(有)エス・パブリッシング)の買掛金債務、手形債務											
相手先名	金額	種類											
大日本印刷(株)	1,478千円	子会社取引先(有)エス・パブリッシングの買掛金債務、手形債務											

(四半期連結損益計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日)	
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
給料手当	1,107,969千円
賞与引当金繰入額	62,919
退職給付引当金繰入額	14,577
貸倒引当金繰入額	613
地代家賃	367,453

当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日)	
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
給料手当	381,975千円
賞与引当金繰入額	39,719
退職給付引当金繰入額	1,220
貸倒引当金繰入額	1,138
地代家賃	127,106

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日)	
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	(平成21年11月30日現在)
現金及び預金勘定	1,811,422千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	123,407
現金及び現金同等物	<u>1,688,014</u>

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年11月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年3月1日至平成21年11月30日)

1 発行済株式の種類及び総数

普通株式 226,090株

2 自己株式の種類及び株式数

普通株式 10,809株

3 新株予約権等に関する事項

ストック・オプションとしての新株予約権

新株予約権の当第3四半期連結会計期間末残高 親会社 9,651千円

(注)平成17年5月25日の新株予約権は、権利行使期間(権利行使期間自平成22年6月1日至平成24年5月31日)が未到来となっております。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年5月27日 定時株主総会	普通株式	43,056	200	平成21年2月28日	平成21年5月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(リース取引関係)

リース取引開始日が会計基準適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりますが、当第3四半期連結会計期間末におけるリース取引残高は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループのデリバティブ取引は、事業の運営において重要性がなく、かつ、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

## (セグメント情報)

## 【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日）

(単位：千円)

	クリエイティブ分野 (日本)	クリエイティブ分野 (韓国)	医療分野	I T・法 曹・会計他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	2,162,712	395,406	456,188	244,097	3,258,404	—	3,258,404
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	32,522	—	450	21,196	54,169	(54,169)	—
計	2,195,235	395,406	456,638	265,294	3,312,573	(54,169)	3,258,404
営業利益又は 営業損失(△)	△24,826	△7,998	32,495	2,195	1,865	(5,018)	△3,152

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日）

(単位：千円)

	クリエイティブ分野 (日本)	クリエイティブ分野 (韓国)	医療分野	I T・法 曹・会計他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	6,463,111	1,155,276	1,531,267	555,042	9,704,698	—	9,704,698
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	56,780	—	450	66,959	124,189	(124,189)	—
計	6,519,891	1,155,276	1,531,717	622,001	9,828,887	(124,189)	9,704,698
営業利益又は 営業損失(△)	△53,502	△2,569	332,611	△44,985	231,554	(11,782)	219,771

(注) 1 事業区分は、サービスの種類、性質及び販売市場の類似性等を考慮して区分しております。

## 2 各事業の主な内容

- (1) クリエイティブ分野（日本）…映像、ゲーム、Web・モバイル、広告・出版等のエージェンシー事業
- (2) クリエイティブ分野（韓国）…映像、ゲーム、Web・モバイル、広告・出版等のエージェンシー事業
- (3) 医療分野……………「民間医局」をコンセプトにしたドクター・エージェンシー事業
- (4) I T・法曹・会計他…………… I Tエンジニア・法曹関係者等のエージェンシー事業・会計分野のエージェンシー事業他

## 3 事業区分の変更

当社グループは、従来、「エージェンシー事業」「教育事業」「出版事業」の区分によっておりましたが、各分野においてエージェンシー事業を展開する連結子会社の規模の成長や、今後の事業展開等を鑑み、セグメント情報を経営環境とより適合したものとするため、第1四半期連結会計期間より「クリエイティブ分野（日本）」「クリエイティブ分野（韓国）」「医療分野」「I T・法曹他」に変更しております。

## 4 追加情報

第2四半期連結会計期間において、ジャスネットコミュニケーションズ株式会社を連結の範囲に含めたことにより、事業区分の「I T・法曹他」を「I T・法曹・会計他」に名称変更しております。

また、前連結会計年度の事業区分によった場合の事業の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日）

（単位：千円）

	エージェン シー事業	教育事業	出版事業	計	消去又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	3,115,236	133,399	9,769	3,258,404	—	3,258,404
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,115,236	133,399	9,769	3,258,404	—	3,258,404
営業利益又は営業損失（△）	183,890	37,085	△38,891	182,084	(185,236)	△3,152

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日）

（単位：千円）

	エージェン シー事業	教育事業	出版事業	計	消去又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	9,337,616	327,059	40,022	9,704,698	—	9,704,698
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	300	458	—	758	(758)	—
計	9,337,916	327,517	40,022	9,705,456	(758)	9,704,698
営業利益又は営業損失（△）	791,109	95,727	△89,964	796,872	(577,100)	219,771

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日）

（単位：千円）

	日本	韓国	計	消去又は全社	連結
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,862,998	395,406	3,258,404	—	3,258,404
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,007	—	7,007	(7,007)	—
計	2,870,006	395,406	3,265,412	(7,007)	3,258,404
営業利益又は営業損失（△）	5,298	△7,998	△2,699	(452)	△3,152

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日）

（単位：千円）

	日本	韓国	計	消去又は全社	連結
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	8,549,421	1,155,276	9,704,698	—	9,704,698
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,007	—	7,007	(7,007)	—
計	8,556,429	1,155,276	9,711,705	(7,007)	9,704,698
営業利益又は営業損失（△）	222,793	△2,569	220,224	(452)	219,771

（注）国又は地域は、地理的の近接度により区分しております。

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日）

	韓国	計
I 海外売上高（千円）	395,406	395,406
II 連結売上高（千円）	—	3,258,404
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	12.1	12.1

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日）

	韓国	計
I 海外売上高（千円）	1,155,276	1,155,276
II 連結売上高（千円）	—	9,704,698
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	11.9	11.9

（注）1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

（1株当たり情報）

1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 （平成21年11月30日）	前連結会計年度末 （平成21年2月28日）
1株当たり純資産額 14,276円40銭	1株当たり純資産額 14,258円67銭

2 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額等

当第3四半期連結累計期間 （自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日）	当第3四半期連結会計期間 （自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日）
1株当たり四半期純利益金額 256円47銭	1株当たり四半期純損失金額 75円83銭
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注）1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第3四半期連結累計期間 （自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日）	当第3四半期連結会計期間 （自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）（千円）	55,214	△16,326
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失（△）（千円）	55,214	△16,236
期中平均株式数（株）	215,281	215,281
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年1月6日

株式会社クリーク・アンド・リバー社  
取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 和田 芳 幸 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柴 谷 哲 朗 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クリーク・アンド・リバー社の平成21年3月1日から平成22年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年9月1日から平成21年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年3月1日から平成21年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クリーク・アンド・リバー社及び連結子会社の平成21年11月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 追記情報

セグメント情報の「事業の種類別セグメント情報」の「(注)3 事業区分の変更」に記載されているとおり、会社はセグメント情報の事業区分を変更している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。